

平成31年1月21日

杜の都信用金庫

## 「後見支援預金」の取扱い開始について

杜の都信用金庫（理事長 星 倫市）は、平成31年2月1日（金）より「後見支援預金」の取扱いを開始いたします。

なお、「後見支援預金」については、当金庫を含む宮城県内5信用金庫（杜の都信用金庫・気仙沼信用金庫・石巻信用金庫・宮城第一信用金庫・仙南信用金庫）が一斉に取扱いを開始するものです。

「後見支援預金」は、後見制度（成年後見または未成年後見）による支援を受ける方（ご本人）の財産を安全・適切に管理できる預金です。後見人による預金の預入れや払戻しなどは、すべて家庭裁判所が発行する「指示書」に基づいて行われるため、ご本人の財産について透明性の高い管理が可能となります。

### 記

#### 1. ご利用いただける方

家庭裁判所から「後見支援預金」の利用に係る「指示書」の発行を受けた方

#### 2. 取扱商品

普通預金または無利息型普通預金

#### 3. 商品特徴

- (1) 家庭裁判所の指示書に基づき取引をいたします。
- (2) 金利は、定期預金1年もの（300万円未満）の店頭表示金利を適用いたします。
- (3) キャッシュカードは発行されません。
- (4) 給与・年金等の自動受け取りおよび公共料金・クレジット等の預金口座振替はご利用いただけません。
- (5) お取引は、口座を開設された店舗の窓口での取扱いに限定させていただきます。

※詳細につきましては、下記にお問合せください。

#### <お問合せ先>

最寄りの各営業部店及び事務統轄部（TEL：022-222-8168）にお問合せ下さい。

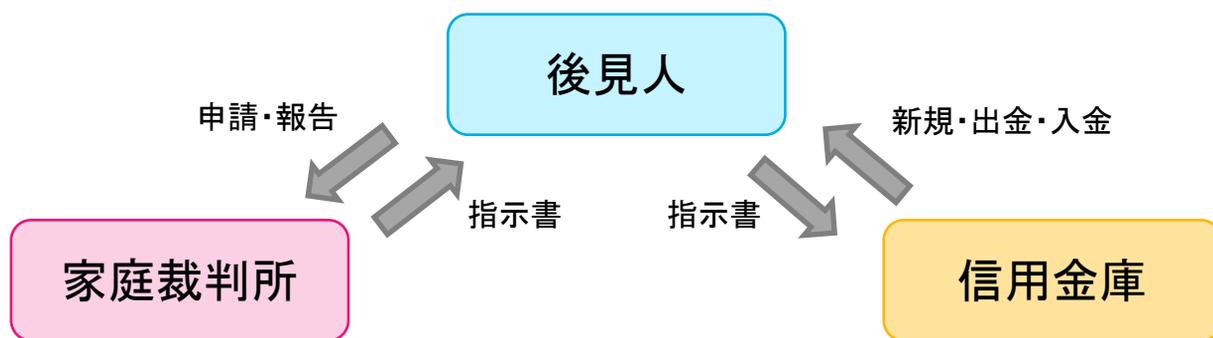
# 後見支援預金について

宮城県信用金庫協会

## 後見支援預金とは？

後見人が、裁判所の指示書によって利用できる普通預金です。

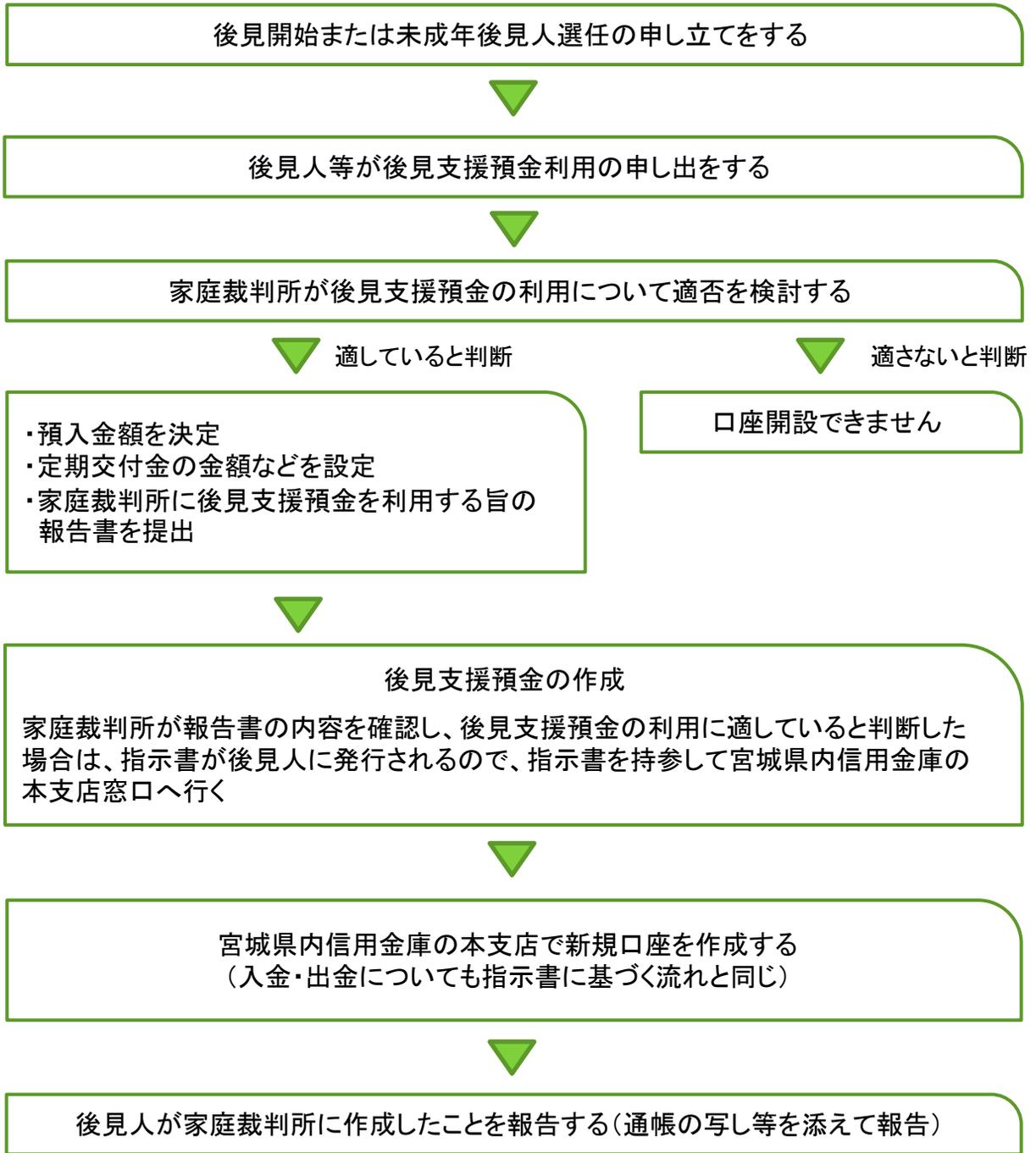
- 被後見人の預金のうち、日常的な支払いをするのに必要十分な金銭は、後見人自身で管理し、残額は「後見支援預金」として、家庭裁判所の指示書に基づき別口座で管理します。
- 後見支援預金口座における入出金は、家庭裁判所の指示書が必要となり、後見人による被後見人の財産管理の透明化が図れます。



## 📄 後見支援預金の特徴・メリット

- ・すべての取引(入金・出金・解約等)に家庭裁判所の指示書が必要となります。
- ・普通預金であり、いくらからでも預入することができ、手数料はかかりません。
- ・金利は、定期預金1年もの(300万円未満)の店頭表示金利を適用いたします。
- ・キャッシュカードは発行されません。
- ・後見人が口座を開設できます。  
(裁判所の判断により専門職後見人が選任される場合があります。)
- ・現在は「後見」の類型のみの取扱いとなります。
- ・手間やコストをかけず、お取引をそのまま継続することができます。
- ・家庭裁判所が関与することで、「公平性」・「透明性」の高い財産管理が可能となり、後見人の財産管理の負担軽減につながります。

## 後見支援預金口座開設までの流れ



### ◆後見支援預金口座開設時に必要なもの◆

- ・指示書
- ・後見人の本人確認書類
- ・登録印鑑
- ・登記事項証明書(原本)
- ・口座開設申込書(本支店にて記入)
- ・預入金(振込される場合は0円で作成できます)

詳しくは、宮城県内の信用金庫本支店窓口へお問い合わせください

## 後見制度において利用する「後見支援預金」のご案内

～ ご本人の大切なご預金を安全かつ簡便に  
管理するための制度です ～

宮城県信用金庫協会

### Q 「後見支援預金」とはどのようなものですか。

A 後見制度による支援を受ける方（ご本人）の預貯金のうち、日常的な支払いをするのに必要十分な金銭は後見人がご自身で管理し、残りの通常使用しない金銭は「後見支援預金」として家庭裁判所の指示書に基づき別口座で管理します。

### Q 「後見支援預金」の作成手順を教えてください。

A 後見人が管理するのに必要十分な金額以上の預金があり、「後見支援預金」を作成した方が良くと後見人が判断した場合、後見人は家庭裁判所にその旨申し出ていただき、家庭裁判所が発行した指示書を県内信用金庫に持参して「後見支援預金」を作成し、その通帳の写しを裁判所に提出します。

なお、後見人が管理するのに必要十分な金額以上の預金がある場合、別途、家庭裁判所において専門職後見人が選任されることもあります。この場合、「後見支援預金」を作成した方が良くかどうかはその専門職後見人が判断し、一般的に手続き終了後に辞任します。

### Q 後見人が自由に「後見支援預金」を出金することはできますか。

A 預け入れる場合も、出金する場合も家庭裁判所の指示書が必要となります。後見人が自分で管理している口座では資金が不足する場合、家庭裁判所に申し出ていただき、一時金交付等の指示書が発行してもらってください。

また、後見人が管理している口座の残高が増加し、「後見支援預金」に追加で預け入れる場合も、家庭裁判所に申し出て追加預入の指示書をいただってください。

### Q 誤って指示書なく後見支援預金に預け入れた場合、入金訂正はできますか。

A 指示書なく誤って入金した場合でも、出金又は訂正をする際は家庭裁判所の指示書が必要です。

### Q 本人の毎月の定期的収支は赤字なので、後見人の管理する預金はすぐに不足することが予想されるのですが。

A そのような場合には、定期的かつ自動的に必要金額を「後見支援預金」から後見人管理の預金口座に送金することができます。

また、本人の定期的な収支が変動した場合は、家庭裁判所に変更する理由を記載した報告書（書式は裁判所にあります）を裏付け資料とともに提出してください。家庭裁判所は報告書の内容に問題がないと判断すれば申出に基づいて定期金交付額変更の指示書

を発行するので、送金額の変更をしてください。

**Q 「後見支援預金」はいくらから預入できるのでしょうか。**

A 金額は自由です。例えば本人の預金残高が3百万円、かつ毎月の収支が黒字の場合で、後見人の手元には1百万円あれば十分と考えた場合には、残額の2百万円を「後見支援預金」に預入することで後見人の管理負担を軽くすることができます。

**Q 同じような制度の後見制度支援信託とはどこが違うのでしょうか。**

A 主な違いは次の3つです。

1. 後見制度支援信託では最初に専門職後見人の方が制度の利用可否を検討し、家庭裁判所の指示を受けて信託銀行で信託契約を結びますが、「後見支援預金」では専門職後見人が選任されるかどうかは家庭裁判所が判断することとなります。
2. 後見制度支援信託では最低預入単位が定められている信託銀行もありますが、後見支援預金は最低預入の制限はありません。従ってどなたでも利用し易くなっています。
3. 「後見支援預金」には特別な手数料等や後見支援信託では発生する信託報酬も必要ありません。また、専門職後見人が選任されない場合は、選任に係る費用も発生しません。

**Q 「後見支援預金」の金利はどのようになりますか。**

A 「後見支援預金」は普通預金ですが、金利については、1年もの定期預金の店頭金利表示を付利させていただきます。

**Q 預金保険の対象となりますか。**

A 「後見支援預金」も預金保険の対象となり、被後見人が杜の都信用金庫に預入されている他の預金と合算して1,000万円とその利息が保護されます。

**Q 「後見支援預金」を利用して家庭裁判所の後見監督はありますか。**

A 「後見支援預金」を利用している場合でも、家庭裁判所は毎年定期的に後見報告書をお願いしています。従って後見等事務報告書の提出時、「後見支援預金」を含む通帳のコピーも添付してください。また、収支一覧表の作成や、領収書などを保管するとともに、ご本人の心身の状態や生活の状況を定期的に記録するようにしておいてください。

以上